

兵庫 県
保険 医 協 会

西宮 市
芦屋 区

支部 ニュース

No. 324

2015・5・25

発行
〒662-0835

兵庫 県 保 険 医 協 会
西宮 市 甲 風 園 一 一 一 五
連 絡 先 兵 庫 県 保 険 医 協 会

西宮・芦屋支部
法貴皮膚科内
電話 〇七八(三九三)一八〇三

第22回医療過誤訴訟セミナー 医療事故調をよりよいシステムにするため現場から意見を

4月18日、西宮市民会館で「医師法21条再論考と医療事故調査制度」をテーマにした第22回医療過誤訴訟セミナーを開催。佐藤一樹先生(一般社団法人日本医療法人協会「現場からの医療事故調ガイドライン検討委員会」委員、東京都葛飾区・いつき会ハートクリニック院長)が講師、鶴飼万貴子弁護士(大阪市・米田泰邦法律事務所)がアドバイザーを務め、医師・医療事務ら18人が参加した。司会を務めた半田伸夫先生(西宮市・半田医院)の感想文を掲載する。

雨の多かった4月に久しぶりに晴天となった18日(土)、西宮市民会館にて兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部 医療過誤・訴訟セミナー22回が開催された。今年10月から始まる医療事故調査・支援センター事業を見据えて、自身が医療事故訴訟の冤罪による被告となり、無罪を勝ち取った現役開業医の佐藤先生をお招きして、上記演題の講演をいただいた。多くの医師は、医療関連の予期しない

死亡例は、異常死として医師法21条に基づいて警察に届ける必要があると理解している。でもそれは誤り。21条では体表に異常のある「異常死体」に限り届けるのみ記載されている。佐藤先生たちは、このことを明確にし、2012年に厚生労働省、医師会等に周知徹底させ、死亡診断書マニュアル26年度版からそれに沿った記載となった。

次に、今年度10月から開始される医療事故調査・支援センター事業である。医療事故調査は、本来事実経過の把握、原因分析が主体で、現場の医療関係者の声をまとめたものが大切、早期に開催し、関係者全員に聞き取り調査し、主観や評価をせずに作成すべきものである。しかしながら、事故調査の隠れた目的として、紛争対策や、患者側や社会の攻撃をかわすための報告書作成の面があり、現実とはかけ離れている場合がある。そのため、独立性をもった、医療事故調査システムが必要となり、今年から運用に入ることとなった。ただ、この事業を本来の目的である医療安全のために活用するには、



右から、講師の佐藤先生、アドバイザーの鶴飼先生、司会の半田先生。医療事故調の問題点などについてそれぞれの立場から発言し、意見交換を行った。



会場からも熱心な質問が出され、医療事故調のあるべき姿について討論した

非懲罰性、秘匿性、独立性、専門家による分析、適時性などが求められる。そのために、佐藤先生をはじめとする現場からの医療を守る会がよりよいシステムにするべく努力しているが、まだ問題も多い。今後とも現場から多くの意見をする必要があると感じた。

最後に鶴飼弁護士から、診療所の医師も、予期せぬ死亡例が出た場合は、センターに報告する必要があることが付け足された。開業医として、うかうかできないのが現状である。

【西宮市・半田医院 半田伸夫】

世話人会だより

西宮・芦屋支部は4月24日に西宮医療会館で世話人会を開催。5人が参加した。

【報告】

- ①メデイカルスタッフ勉強会(3・28)
- ②支部お花見会(4・4)
- ③第22回医療過誤訴訟セミナー(4・18)

【予定・企画】

- ①借り上げ復興住宅入居者との懇談(5・9)
 - ②健康と医療について語り合う会(5・13)
 - ③院内感染対策研修会「BBP(血液伝播病原体)コース」(6・20)
 - ④職員接遇研修会(6・27)
 - ⑤第32回漢方研究会(7・11)
 - ⑥英語で診療 Medical English #43(7・17)
 - ⑦第35回支部総会(7・18)
 - ⑧第25回日常診療ガイドライン
 - ⑨被災地物産展・被災地支援と交流の企画
 - ⑩新規開業医懇談会
- 【協会行事】
- ①第87回評議員会(5・17)
 - ②保団連第45回夏季セミナー(7・4~5)

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

第30回在宅医療研究会

業者から見た在宅現場の生の状況を報告

2月28日、西宮市民会館で「①業者から見た診療報酬改定後の実態」「②在宅における睡眠検査と合併症」をテーマに第30回在宅医療研究会を開催。ミヤコ在宅医療サービス株式会社第一営業部課長の東野健悟氏が講師、西宮市・川崎医院の川崎史寛先生が司会を務め、医師・メデイカルスタッフら9人が参加した。参加者からの感想文を掲載する。

この度、兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部第30回在宅医療研究会に参加させていただきました。今回はミヤコ在宅医療サービス(株)東野健悟氏のご講演でした。昨年4月の診療報酬改定に伴い、診療内容を大幅にシフトした医療機関の実態や在宅医療開始にあたり施設・病院の地



講師を務めた東野氏

域連携室との関わりなど、医療に携わる業者から見た現場の生の状況を教えて頂きました。その中で特に印象深かったのは、H O T設置に向いた際の患者とのやり取りから垣間見る業者側の心情でした。事例紹介では、スタッフ雇用に関する驚くべき違法行為があった介護施設と近畿厚生局の介入といった事例の報告があり、週刊誌ネタがこんな身近に・と改めて驚きました。

最近テレビや新聞等から認知度が高まっている睡眠時無呼吸症候群のテーマでは、生活習慣病や消化器疾患との関連など興味深い内容でした。さらに医療事務の点から、H O T・C P A Pにおける返戻・減点の傾向やレセプト・コメント等の注意点などアドバイスもあり、総じて有意義な時間を過ごすことができました。思います。

在宅医療業者としての患者・医療機関との関わりで、各々の視点・立場に立ち個別のニーズに対応していく東野氏の姿勢には、民間企業にありがちな営利目的だけではない「熱い思い」を感じ、身が引き締まる思いがしました。

【西宮市・ふなもとクリニック 上田謙志】

西宮・芦屋支部 第35回総会記念市民公開企画

100人の村
あなたもここに生きています

日時：7月18日(土) 14時30分～(会場14時)
総会議事14時～ 懇親会17時30分～

会場：西宮市立勤労会館大ホール
お話し：ドイツ文学翻訳家・口承文芸研究家
池田 香代子 氏

入場料：無料

※どなたでもご参加いただけますが、できる限り事前のお申込みをお願いいたします。

今年の総会記念市民公開企画は、ベストセラー『世界がもし100人の村だったら』で知られるドイツ文学翻訳家の池田香代子さんに、戦後70年の節目の今、平和と人権の大切さについて、4年を経た東日本大震災と原発事故という歴史的経験にもふれながらお話しいただきます。



医師・歯科医師・薬剤師の先生はもちろん、ご家族、スタッフやお知り合いの方など、ぜひ多数お誘いあわせのうえご参加ください。

池田 香代子 (いけだ かよこ) さん 略歴:

東京・杉並区生まれ。ドイツ文学翻訳家・口承文芸研究家。

著書に『世界がもし100人の村だったら』シリーズ、『引き返す道はもうないのだから』、翻訳はグリム童話はじめ『夜と霧 新版』、『ソフィーの世界』など多数。

◆お問い合わせは、協会事務局 岡林・山田・伊藤まで Tel:078-393-1803 ◆

支部お花見会

お花見弁当を囲んで交流を深めよう



お花見弁当を囲んで乾杯する参加者

4月4日、支部お花見会を開催。直前まで雨の予報だったため、支部世話人の安岡真奈美先生(西宮市・安岡クリニック)のご自宅で開催し、7人が参加した。

参加者はお花見弁当や、それぞれが持ち寄った飲み物・食べ物を囲みながら、開業当初の思い出を振り返ったり、日常診療などについて語り合い、交流を深めあった。

予報に反して当日は晴天となったため、食後は阪急苦楽園口付近の満開の桜並木の散策も行った。